

# 平成二十二年 総会 報告

「四国の川を考える会事務局」

平成二十二年度の総会を七月十四日、高松市において、会員百七十七名のうち五十五名が出席、八十六名の委任状をもって開催しました。

## 四国の川を考える会 平成二十二年 総会 次第

一、開会	一、会長挨拶
一、議事	一、閉会
1 平成二十一年度事業報告	一、講演
2 平成二十一年度決算報告・監査報告	『日本が生んだ偉大な土木技術者 八田與一と宮本武之輔の生涯』
3 平成二十二年 事業計画(案)・予算(案)	「宮本武之輔を偲び顕彰する会」副会長 「八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会」顧問 古川 勝三氏
4 役員改選	
5 その他	

運営幹事会  
開催日／平成二十二年三月八日(月)～  
十二日(金)  
場 所／持ち回り会議  
議 題／平成二十二年 助成事業について  
その他

② 役員会  
開催日／平成二十一年六月十六日(火)  
場 所／高松市 マリンパレスさぬき  
議 題／平成二十一年 総会について  
その他

③ 総会  
開催日／平成二十一年七月三日(金)  
場 所／高松市 マリンパレスさぬき  
議 題／平成二十一年 事業報告  
平成二十一年 決算報告・監査報告  
平成二十一年 事業計画(案)・  
予算(案)  
役員改選

④ 審査委員会  
開催日／平成二十二年六月十七日(木)  
場 所／高松市 四国建設弘済会  
議 題／審査委員会による新規入会審査等  
(一般会員三名)

## 1 平成二十一年度 事業報告

(1) 会議  
① 運営幹事会  
開催日／平成二十一年四月二十八日(火)  
場 所／高松市 四国建設弘済会  
議 題／役員会・総会開催について  
その他

(2) 広報誌・機関紙の発行  
① 広報誌『あめんぼ』WEB版  
発行／平成二十一年十月  
② 機関紙『水紋』Vol.128 WEB版  
発行／平成二十二年一月二十日

## (3) 広報事業と助成事業

区分	イベント名	河川名	場 所	主 催 者	実 施 状 況
広報事業	第27回 ファミリーハゼ釣り大会	吉野川	名田橋～ 吉野川河口一帯	徳島県釣連盟 四国の川を考える会	平成21年10月11日(日) 485名参加
助成事業	那賀川源流碑開き	那賀川	那賀川源流碑及び 源流モニュメント周辺	那賀川アフターフォーラム	平成21年4月19日(日) 約185名参加
	土器川生物公園魚類調査及び 清掃	土器川	土器川生物公園	土器川生物研究会	平成21年9月27日(日) 平成22年3月28日(日) 35名参加/回
	重信川クリーン大作戦	重信川	重信川流域	重信川の自然をはぐくむ会 重信川エコリーダー	平成21年6月6日(土) 363名参加 平成21年10月17日(土) 330名参加
	宮本武之輔を偲び顕彰する会 への活動	—	愛媛県松山市内	宮本武之輔を顕彰する会	平成21年11月3日(火) フォーラムを開催 約400名参加

2 平成二十一年度監査報告  
監査報告

平成21年度監査報告	
「四国の川を考える会」会則第11条4項の規定により、 監査を執行したので報告する。	
記	
監査執行日	平成22年4月19日
監査内容	平成21年度本会経理状況
意見	本会会計に係わる収入及び支出の状況並びに 各帳簿書類は正確であり、金銭残高については、 貯金通帳と合致していることを認める。
監事	香川県河川協会 下村 健次 電源開発(株)西日本支店 鎌田 光

決算期間

自 平成二十一年四月一日  
至 平成二十二年三月三十一日

3 平成二十二年事業計画(案)

(1) 事業計画(案)

- ① 機関紙『水紋』をホームページにて公開
  - ② ホームページを活用し、広報誌『あめんぼ』の情報発信を行う。
  - ③ 広報事業として「吉野川ファミリーハゼ釣り大会」を行う。
  - ④ 助成事業として数件の助成を行う。
  - ⑤ シンポジウム等への参加
- 会の目的にあったものに参加する。

(1) ③・④ 広報事業と助成事業(案)

区分	イベント名	河川名・場所	主催	開催日
広報事業	第28回ファミリーハゼ釣り大会	吉野川 名田橋～吉野川河口一帯	徳島県釣連盟 四国の川を考える会	平成22年10月10日(日)
助成事業	那賀川源流碑開き	那賀川 那賀川源流碑及び 源流モニュメント周辺	那賀川アフターフォーラム	平成22年4月18日(日)
	土器川生物公園生物調査及び清掃	土器川 土器川生物公園周辺	土器川生物研究会	平成22年7月～8月 平成23年2月～3月
	重信川クリーン大作戦	重信川 重信川流域	重信川の自然をはぐくむ会 重信川エコリーダー	平成22年6月 平成22年10月
	宮本武之輔を偲び顕彰する会の活動	愛媛県松山市内	宮本武之輔を偲び顕彰する会	定例会5回 講演会1回

4 役員の変更  
● 役員

監事		理事							顧問	副会長	会長	役員
鎌田 光	下村 健次	小野 重充	加藤 均	福原 吉宗	福田 昌史	公文 洽夫	菊池 弘美	井下 俊作	三井 宏	石破 弘道	鈴木 幸一	国立新居浜工業高等専門学校 校長
電源開発(株)西日本支店 支店長代理	香川県河川協会事務局	財河川情報センター 高松センター所長	四国電力(株)電力輸送本部水力部 総括グループリーダー	四国治水期成同盟連合会幹事長	社四国建設弘済会理事長		NPO法人それいけ夢工房代表	四国大学短期大学部教授	徳島大学名誉教授			

●運営幹事

運営幹事名	
加藤 均	四国電力(株)電力輸送本部水力部 総括グループリーダー
工藤 建夫	(社)四国建設弘済会専務理事
鎌田 光	電源開発(株)西日本支店 支店長代理
尼子 進	香川県土木部河川砂防課長
公文 洽夫	
藤山 究	四国地方整備局河川部河川情報管理官

●参与

参与名	
河野 弘治	徳島県県土整備部河川整備課長
尼子 進	香川県土木部河川砂防課長
頼木 清隆	愛媛県土木部河川課長
吉本 祐二	高知県土木部河川課長
藤山 究	四国地方整備局河川部河川情報管理官

【新役員から一言】

◆理事

四国治水期成同盟連合会幹事長 福原 吉宗

今年の四月より、「四国の川を考える会」の理事を務めさせて頂くこととなりました。

ご存知のとおり、四国地方は険しい山々が多く、また、台風の常襲地帯であるため、水害が起こりやすい地域であります。そのため、毎年のように住民は水害被害を被っておりますが、治水事業予算は厳しい財政状況を背景に、大きく縮減されているのが現状です。

そのような状況を踏まえたうえで、皆様とともに、災害に強い良好な河川づくりについて考え、取り組んでまいりたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

◆理事・運営幹事

四国電力(株)電力輸送本部水力部

総括グループリーダー 加藤 均

この度、本職を務めさせて頂くことになりました。会社では、水力発電所の保守・建設等により四国の川に関わってきました。

河川の印象や思い出を挙げてみると、仁淀川ではアユが美味しかったです、四万十川では沈下橋が素朴で雄大です、肱川では肱川あらしに感激しました、石手川ではほぼ毎年洪水でした、加茂川は水がとてもきれいです、というように河川毎にそれぞれ特徴がありました。

今、高松の御坊川の横に住んでいます。川は小さく、水もあまりきれいとは言えませんが、大雨のときは濁流となり、田植えの時は堰上げて水を使い、

夏は風の道となり、冬はカモが飛来するなど、コンパクトではありますが、まさに身近に治水・利水・環境が見られます。

今一度、本会の目的を自分なりに見つめ直し、少しでもお役に立てればと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

◆監事・運営幹事

電源開発(株)西日本支店支店長代理 鎌田 光

この度、監事・運営幹事を務めさせて頂くこととなりました鎌田です。

水力発電事業に携わる中で、局所的集中豪雨への対応、河川環境保全等の課題解決に向けて取組んでいるところです。

会の活動を通じ、あらためて川との係わりについて考えて参りたいと思いますので、よろしくお願いたします。

◆参与

徳島県県土整備部河川整備課長 河野 弘治

今年四月より、河川整備課長になりました河野です。よろしくお願いたします。

私は、吉野川流域に位置する吉野川市川島町に生まれ、吉野川との付き合いは長い。子供の頃から水遊びや釣りなど楽しい思い出いっぱい。吉野川である「川の楽しさ」、台風などの大雨による増水した濁流にもまれながら流れる丸太や根株などを目のあたりして「川の怖さ」についても子供ながらに感じておりました。

この度、「四国の川を考える会」の一員とならせていただいたことから、皆様に「ご教授をいただき、すばらしい吉野川に支えられながら「安全・安心の実現」を目指すことで自然災害にも強い地域づ

くりを推進するとともに、「豊かで潤いのある水辺環境の形成」にも取り組んでいきたいと考えております。

◆参与

愛媛県土木部河川課長 頼木 清隆

今年の四月から河川課長に着任し、「四国の川を考える会」の参与を努めさせていただくことになりました。

愛媛県は地形、地質の特性から、災害が発生しやすい要件を備えており、今後、地球温暖化の影響を受け、局地的な集中豪雨、台風の激化、高潮等、災害の発生リスクの増加が予測され、大規模災害の発生が懸念されています。

また、県都松山市においては、年降水量の変動幅が広くなる傾向が見られ、浸水と濁水の両極端な二面性に悩まされています。

他県と同様、本県においても、財政状況が非常に厳しいため、治水対策や河川管理施設の維持・更新などが思うように進まない状況であります。民間活力を導入し、効率的な河床掘削を行う「民活河床掘削推進事業」や、NPOやボランティア団体等と連携し、環境整備を進める「愛リバー・サポーター制度」などを積極的に活用しながら、「安全で安心して暮らせる川づくり」を目標に整備を進めてまいりたいと考えております。

◆参与

高知県土木部河川課長 吉本 祐二

この四月から、五年ぶりに河川課勤務となり、本職を務めさせていただくこととなりました。

家庭では、十数年前から犬の散歩係を命ぜられ、近所の堤防を散策するのが日課となっております。

兩岸をコンクリートで固められた河川ではありませんが、吹く風や鳥の鳴き声に四季の移り変わりを感ずる日々を過ごしています。

さて、近年、全国各地で局地的な集中豪雨、いわゆるゲリラ豪雨により浸水被害などが頻発しています。幸いなことに高知県では、ここ数年、大きな被害は発生しておりません。

しかし、IPCCの第四次評価報告書によれば、

今後、降雨の偏在化も顕著になり、年ごとの降水量の変動は増加すると予測され、洪水と濁水のリスクが更に高まる懸念されています。

そのような中、本県も財政の制約のもと、「選択と集中」で河川事業に取り組んでおりますが、県民が安全で安心できる県土づくりに少しでも貢献できればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。